

第7回日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会沖縄大会開催報告

大会長 久志 紫乃
実行委員長 小池 正樹

九州地区学術集会は、沖縄を含む九州8県合同で1年ごとに各県持ち回りで開催しており、今回で7回目を迎えました。沖縄県県士会で実行委員会を設立し、実行委員数名が2017年1月に宮崎県で次回開催地紹介を行い、事務局、学術局、会場、懇親会、財務、広報、総務の各部署に分かれての各部署会議、全体会議を月1回から2回行い、県庁訪問、広告・協賛の募集など約1年半かけて準備を進めてまいりました。2018年1月27、28日に開催し、県内外から297名の参加をいただきました。

本大会はテーマを「団結～地域で創るゆい(結)まーる～」



シンポジウム演者の先生方



次回開催地の佐賀県県士会代表メンバーの挨拶

と掲げ、乳幼児から後期高齢者にわたる広い年齢層かつ多分野においてサービスを提供するSTが、それぞれのフィールドを越えて団結することで、地域における活動をさらに充実させるとの決意が込められています。

プログラムとして、ST協会会長深浦順一先生、沖縄県庁職員椋野清史氏による基調講演「日本における言語聴覚士の歩みと今後の展望」、ST協会副会長内山量史先生を含むシンポジウム「沖縄県の地域包括ケアシステムの現状と発展」、教育講演1題、市民公開講座2題、その他口述、ポスターを含めて58演題の発表が行われました。講演には参加者は熱心に聞き入り、発表では活発な質疑応答が行われていました。

本大会を主催するにあたり、施設外のSTと毎月顔を合わせて会議を行ったことで県内各施設の連携が開催前より深まったように感じます。また、学術集会を主催する機会は減多にあることなく、開催側の苦労や工夫をある程度知ることができ、新しい視点で今後の学会に参加できるようになったと思います。そして、マニュアルを作成し、当日の朝までミーティングを開き念入りにスタートを切りましたが、思わぬトラブルに見舞われることもありましたが、それでもこれまでの準備が実を結び、自分たちのイメージした学術集会になったと思います。

懇親会会場にて



学術集会運営スタッフ一同